

ロシア東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2003年(平成15年)3月5日号 No.1254

目次

「サハリン・プロジェクト」を取り巻く環境及び補償問題	村部 興 1
エトセトラ	8
世界銀行リン副総裁との懇談会のご案内 / 8	
ブルガリア経済・ビジネスセミナー開催のご案内 / 8	
イルクーツク技術フォーラムの報告書 / 9	
ロシア東欧貿易会関連の行事予定	9
CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	9

「サハリン・プロジェクト」を取り巻く環境及び補償問題

はじめに

1999年7月に原油の先行生産を開始したサハリン プロジェクトに引き続き、サハリン プロジェクトも2005年第4四半期からの原油の商業生産開始を目指してチャイボ鉱区での沿岸からの水平掘りによる油井掘削作業の開始を本2003年前半に予定している。しかしながら他方では、サハリン 、 プロジェクト開発の進展に伴い、ロシア国内外の環境NGOは、これらプロジェクト開発が進むサハリン北東沿岸地域は自然が手付かずのまま残されている貴重な地域であるとして、環境保護を盾に活発な開発反対運動を展開している。このような中、2002年9月18日には、サハリン プロジェクトが開発の第2段階(ガスの全面開発・生産)で計画する海底パイプライン敷設構想がサハリン州の漁業活動に悪影響を及ぼす恐れがあるとして、環境への悪影響を防止するためのあらゆる措置を講じるべきとするファルフジノフ・サハリン州知事宛のサハリン漁業者連盟アピールがサハリン地元紙に掲載された。また、2002年9月4日付の『ウォールストリート・ジャーナル』紙は、「シェル(サハリン プロジェクトのオペレーター会社)及びエクソン(サハリン プロジェクトのオペレーター会社)がコククジラの生息海域付近で繰り返し地震探鉱等を実施した結果、これらクジラが絶滅の危機に瀕している」として、「これら両社はサハリン大陸棚開発においてもアラスカでのそれと同程度の厳しい環境保護基準の下で原油・ガス開発を進める必要がある」旨の記事を掲載する等、「サハリン・プロジェクト」に対する環境保護面での内外の批判記事は増加する傾向